

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 日本農薬学会第47回大会報告
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議などの詳細
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内
- 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金のご案内
- 次期役員候補者の推薦受付について
- 令和5・6年度日本農薬学会役員選挙について
- 日本農薬学会第48回大会のご案内
- 日本農薬学会第48回大会における広告、展示およびランチョンセミナー募集のご案内
- 日本農薬学会第48回大会におけるシンポジウム課題の募集
- IUPAC 15th ICCPCのご案内

令和4年度 第1回常任評議員会議事録

日 時：令和4年4月23日(土) 12:00～14:20

方 法：Web開催

出席者：出席者16名（第47回大会組織委員長1名を含む）

議事：

- I. 令和3年度第6回常任評議員会議事録を確認した。
- II. 経過報告および議案
 1. 第48回大会について
 - ・令和5年3月8日～10日（東京農業大学世田谷キャンパス）の開催予定で準備を進めているとの報告があった。
 2. 第47回大会報告
 - ・第47回大会の参加登録数、運営状況、収支決算状況について報告があった。
 - ・これらの報告を基に、第48回大会への引き継ぎを行

うこととした。

3. 財務関係
 - ・会計報告
 - 収支予算管理報告（令和4年1月1日から3月31日まで）があった。
4. 編集委員会
 - ・投稿審査状況、論文へのアクセス状況と被引用数、およびインパクトファクター推移について報告された。
 - ・総説（Review）掲載の効果が大きいので、今後も積極的に企画・提案して頂きたいとの説明があった。
5. 学術・技術支援委員会
 - ・本年度の残留分析セミナーの計画、「農薬について知ろう」ウェブサイトの更新、「残留分析知っておきたい問答あれこれ」の改訂、および講師派遣の方針について説明された。
6. 将来計画委員会
 - ・令和4年度第1回将来計画委員会（4月16日）の開催報告があった。
7. 学会賞受賞者選考委員会
 - ・本年度の賞選考スケジュールを確認した。
8. 学術小集会
 - ・各小集会の委員の交替について審議し、承認された。
9. 技術士育成推進委員会
 - ・本年度の技術士試験について案内すること、および次回大会で技術士セミナーを実施する予定であることの説明があった。
10. 昆虫科学連合、植物保護科学連合
 - ・各連合の活動について報告があった。
 - ・2024年に京都で開催予定の International Congress of Entomology について、英語のウェブサイトが間もなく公開されるとの説明があった。
11. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会についての報告があった。
12. 国際学会の渡航費補助について、現在募集中であるとの説明があった。また今般はオンライン開催が多いことから、渡航費を伴わない参加費補助が可能か検討することとなった。

13. 2022年2月1日～28日における入退会の報告があり、正会員2名の入会が承認された。

14. その他

- ・農薬科学研究奨励金について、研究成果を報告する論文の謝辞に記載するためのグラント番号を各研究課題に振ることが提案され、今後検討することとした。
- ・ニュースレター電子化の進捗について報告された。
- ・今年度実施予定の学会役員選挙について確認した。
- ・農薬登録制度におけるリスクアセスメントとしての使用者曝露量の推定方法についての話題が提供され、各方面との意見交換が行われているとの説明があった。

令和4年度 第2回将来計画委員会議事録

日 時：令和4年6月25日(土) 13:00～15:00

方 法：オンライン

議事：

答申書の作成について

第1回将来計画委員会（令和4年4月16日開催）にて検討された「日本農薬学会の改革に向けた答申」の取りまとめについて、引き続き検討した。さらに検討を重ねた上で、答申書を塩月会長へ提出することとした。

令和4年度 第1回学術・技術支援委員会議事録

日 時：令和4年6月4日(土) 13:00～15:30

方 法：オンライン

出席者：出席13名、欠席1名

議事：

学術・技術支援に係る以下について検討した。

1. 「農薬について知ろう」Webサイトの作業状況及び今後の取組
2. 残留農薬分析セミナー 2022年度の開催
3. 講師派遣の取組及びホームページの掲載内容
4. 「残留分析知っておきたい問答あれこれ」の改訂

日本農薬学会第47回大会（岡山）報告

日本農薬学会第47回大会は、令和4年3月7日(月)から3月9日(水)までの3日間に亘り、すべての行事をオンライン形式（ライブ配信）で岡山市の岡山大学農学部を大会運営本部として開催されました。本大会への参加者数は参加費を納入していただいた、正会員236名、学生会員34名、非会員78名（合計348名）で、その方々に加え、名誉・終身会員84名、賛助会員35社、非会員シンポジスト・特別講演者14名、企業団体セミナー5社、広告寄付企業15社をご招待しました。

初日の7日には、総会、授賞式に続いて受賞講演【奨励賞（2題）、業績賞（技術、1題）】、企業・団体セミナー（1件）、レギュラトリーサイエンス講演（1題）、特別講演（2題）を実施し、8、9日の両日には、一般講演（75題）、シンポジウム（3件）、企業・団体セミナー（4件）を実施しました。いずれの行事も昨年度のオンデマンド方式+オンラインライブ質疑応答併用方式と異なり、ライブ配信方式を採用しました。

初日に奨励賞2名、業績賞（技術）1社の授賞式と受賞講演が行われました。受賞された先生方および企業の研究の益々のご発展をお祈り申し上げます。特別講演では岡山大学の菅誠治先生と宮竹貴久先生にそれぞれ、『活性・反応性にこだわった有機合成』、『昆虫の死にまねを科学する』というタイトルで、ご専門の有機合成化学、昆虫科学の最先端研究に関する講演を行っていただきました。どちらの講演も農薬学会会員にとって大変有意義な内容でした。さらに、団体・企業セミナーとして農薬工業会から日本植物防疫協会 理事長早川泰弘氏による講演の申し込みをいただいたこと、本学会顧問の内田又左衛門氏から興味深い講演の提案をいただいたことから、初日にこれらの二つの講演をまとめて実施することを企画しました。早川氏からは『みどりの食料システム戦略実現に向けて（植物防疫の立場からの提言）～特に化学農薬の使用量（リスク換算）低減に関連して～』というタイトルで、内田氏からは『農薬の安全性と科学の不定性』というタイトルでの講演を行っていただきました。農薬学会の会員が科学者として理解しておくべき大変意義深い内容の講演で、聴講された方々からも高い評価をいただきました。

2、3日目はシンポジウムを3件企画しました。大会恒例となっている農薬バイオサイエンス研究会との共催のシンポジウムとして「生物生態から制御剤まで」と題して、さらに、大会組織委員会から提案し環状ペプチドコンソーシアムと生物刺激制御研究会との共催で「持続可能な食料システムに資する抵抗性誘導関連技術」、日本農薬学会将来計画委員会の企画で「未来開拓シンポジウム—新次元の構築に向けて—」と題して実施していただきました。いずれのシンポジウムも多くの聴講者に参加いただき活発な討論が行われました。

一般講演は75題があり、昨年度のオンデマンド方式から、従来の対面学会と同様の形式のライブ方式での講演・質疑応答の方式に変更しました。座長の先生方のおかげで、活発な議論がなされていました。オンデマンド方式かライブ方式かについては賛否両論があるようですが、今回のライブ方式でも十分に有意義であったと感じております。

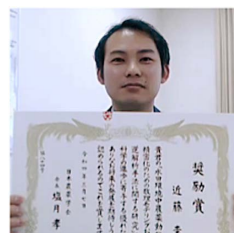
団体・企業セミナーは上記の農薬工業会以外に4社から申し込みをいただき、すべてを重複しない形かつライブ配信で行いました。海外企業が3社含まれておりましたが、時差を考慮した時間帯での開催を行うことができ、活発な討論がライブでなされました。参加企業へのアンケート調査では、企画に満足され、来年度以降も参加の意向があるとされてい



塩月孝博 会長（島根大）



奨励賞
並木小百合 氏（農環研）



奨励賞
近藤 圭 氏（残農研）

業績賞（技術）： クミアイ化学工業



永松 敦 氏



上田 憲 氏



玉井龍二 氏



谷 真樹 氏



山本峻資 氏

写真：令和4年度学会賞受賞者

る企業が大半でしたので、今後も学会として企業・団体のセミナー参画を積極的に進めることが必要であると感じております。

今回の大会も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりましたので、ご参加して戴きました皆様方にはせっかくの岡山大会を岡山で参加できなかったことをお詫びします。皆様方のご協力により、第47回大会（岡山）を無事に終えることができました。参加者各位、特別講演、シンポジウムの演者の方々の協力、さらに、企業広告15社、協賛金企業2社、助成金2財団（岡山）等、多く経済的ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。大会運営を支えていただいた組織委員各位ならびに学生諸君に心から御礼申し上げます。大会組織委員会が少人数であったため、3

社（(株)ダイナコム、(株)イベント&コンベンションハウス、近畿日本ツーリスト（株）広島支店）に業務委託を行い、それらの業者の協力により、スムーズな運営ができたと思っております。今後の大会運営がどのような形になるか不透明な部分が多いですが、大会組織委員会・学会執行部・学会事務局が情報共有して、よりよい大会運営を進めていただくことを期待したいと思います。最後に、新型コロナウイルスと共生しつつ日本農薬学会が発展するとともに、皆様も益々ご活躍、ご発展されることを祈念しております。

日本農薬学会第47回大会組織委員会委員長
神崎 浩（岡山大学）

日本農薬学会第47回大会 収支報告書

単位：円

科 目	決 算 額	備 考
【収入の部】		
大会参加費	2,189,000	有料参加者数
		正会員 236
		学生会員 34
		非会員 78
		合計 348
講演要旨集頒布料	0	
企業セミナー・広告料・協賛金	1,550,000	企業セミナー5件 広告15件 協賛2件
助成金	400,000	
利子	1	
収入合計	4,139,001	
【支出の部】		
会議費	71,438	会議費
大会システム費、映像配信費	2,586,298	大会システム、映像配信等の業務委託
消耗品・雑費	31,280	コピー用紙、プリンターインク
アルバイト費	96,580	バーチャル会場係学生アルバイト
講師謝金費	309,562	特別講演演者、シンポジウム演者
通信運搬費	4,624	切手代、郵送料、振込手数料
支出合計	3,099,782	
収支差額	1,039,219	

会 員 動 静

(令和4年4月1日～令和4年6月30日)

入 会

正会員
阪本浩一 平田祥太郎 村松康彦 小林拓矢

海外会員
山本敬司 Suganthi, A

(受付順)

退 会

名誉会員
上杉康彦

終身会員
永江祐治

正会員
菅野久 朝倉草平 小田サチ 岩佐博邦
上田紘司 篠原剛 廣瀬欣也

学生会員
原なつき 松川奈央 馬場健司

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2022年

9月

28日(水) 第37回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョンー2022』

主催：公益財団法人 報農会

協賛：日本応用動物昆虫学会，日本植物病理学会，日本農薬学会，日本雑草学会

方法：オンラインによるライブ配信

時間：10:00～16:00

<https://honokai.org/wp-content/uploads/2022/07/Symposium-37-kaisaiyouryou.pdf>



29日(木)～30日(金) 第39回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会

会場：ホテルグランヴェール岐山 [〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番地]

方法：対面とオンライン配信のハイブリッド型

URL：<http://pssj2.jp/committee/environment/environment39.html>



10月

14日(金) 第41回農薬製剤・施用法シンポジウム

主催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会

協賛：農業食料工学会，日本雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，色材協会，日本油化学会

方法：オンライン (Webex)

URL：<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai41.html>



19日(水) 残留農薬分析セミナー 2022年度

主催：日本農薬学会

開催方式：オンライン開催

時間：10:00～17:00

定員：50名 (先着順)

申込締切：9月22日(木)

受講費用：会員 5,000円，非会員 20,000円

詳細：<http://pssj2.jp/inside/other.html>



11月

10日(木)～11日(金) 第50回構造活性相関シンポジウム

主催：日本薬学会構造活性相関部会

協賛：CBI学会，人工知能学会，日本化学会，日本コンピュータ化学会，日本生化学会，日本生物物理学会，日本農薬学会，日本バイオインフォマティクス学会，分子科学会，理論化学会，日本薬学会医薬化学部会

後援：日本農芸化学会

方法：オンライン

詳細：<http://www.bio.info.hiroshima-cu.ac.jp/qsar2022/>



11日(金) 第36回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会

開催：オンライン

URL：<http://pssj2.jp/committee/design/design36.html>



22日(火) 第22回農薬バイオサイエンス研究会

主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
開催：対面+オンライン（オンデマンド視聴）でのハイブリッド
会場（対面）：京都大学 北部構内 農学部総合館1階 W106 講義室 [〒606-8502 京都市左京区北白川追分町]
URL：http://pssj2.jp/committee/bioscience/22.html



24日(木)～25日(金) 第45回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会
会場：かがわ国際会議場 [〒760-0019 香川県高松市サンポート2番1号 高松シンボルタワー 6F (タワー棟)]
(ハイブリッド開催. 現地参加 上限150名)
情報交換会：「ミケイラ」(高松市サンポート8-40) 定員60名
エクスカッション：うどん学校 (うどん打ち体験+昼食)
→四国総合研究所 見学等を予定. 定員50名
URL：http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu45.html



2023年

3月

8日(水)～10日(金) 日本農薬学会第48回大会

主催：日本農薬学会
会場：東京農業大学世田谷キャンパス [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

14日(水)～17日(金) IUPAC 15th ICCPC

主催：IUPAC
会場：NASC Complex, New Delhi
URL：https://www.iupac2023.in/



学会主催会議などの詳細

第39回農薬環境科学研究会 開催案内

対面を主体としたハイブリッド形式による開催を予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては変更することがあります。また、ポスター発表や企業展示の申し込み受付を8月26日(金)まで、参加申込みを9月15日(木)まで延長いたしました。ご参加、ご発表をお待ちしております。なお、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、現地見学会は中止といたします。

詳細については、下記の学会ホームページをご参照ください。

<http://pssj2.jp/committee/environment/environment39.html>



主催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会
日時：令和4(2022)年9月29日(木)～30日(金)
場所：ホテルグランヴェール岐山
〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番地
TEL: 058-263-7111 FAX: 058-263-5517
開催方法：対面とオンライン配信のハイブリッド型 (ただし会場は80名まで)

参加申込み

・締め切り：令和4年9月15日(木)

ポスター発表

申し込み・発表要旨締め切り：令和4年8月26日(金) 厳守

テーマ：化学農薬削減を目指したイノベーション
—みどりの食料システム戦略を環境科学から考える—

【プログラム】

〈1日目〉

基調講演：「生物農薬の残留分析～質量分析を用いたプロテオタイピングによる残留微生物識別・定量の試み～」田村廣人 (名城大学)

「バイオスティミュラントとは何か？その科学的根拠を考察する」鳴坂義弘 (岡山県農林水産総合センター)

「植物の防衛能を活用した害虫防除」上船雅義 (名城大学)

「RNAi法を用いた新規害虫防除法の開発」新美輝幸 (基礎生物学研究所)

「微粒子工学的技法を用いた農薬送達システムの開発」野村俊之 (大阪公立大学)

〈2日目〉

「岐阜県における化学農薬使用削減に対する取り組み

「カキとトマトを中心に」 杖田浩二（岐阜県農業技術センター）
「飛騨地方におけるエゴマを活かした研究と地域の動き」
鍵谷俊樹（岐阜県中山間農業研究所）

第41回農薬製剤・施用法シンポジウム 開催案内

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
協賛：農業食料工学会，日本雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，色材協会，日本油化学会
日時：令和4年10月14日(金) 10:00～16:30
形式：オンライン (Webex)

1. プログラム (予定)

- 【特別講演1】 スマート農業実証事業におけるこれまでの成果の概要 (仮題)
住田弘一 (農研機構)
- 【特別講演2】 「農薬の新施用技術検討協議会」の取り組みについて (仮題)
舟木勇樹 (日本植物防疫協会)
- 【特別講演3】 新しい農薬施用に関する全農のスマート農業の取組み
池町健太 (全国農業協同組合連合会)
- 【技術研究発表】 数題を予定

2. 参加申込

(1) 申込方法

参加登録締切：令和4年10月9日(日)
第41回農薬製剤・施用法シンポジウムページ (下記URL) で，参加登録事前準備，参加登録方法をご一読いただき，参加登録・参加費のお支払をお済ませください。
<https://peatix.com/event/3241055>



参加登録後，開催当日のWebexへのアクセス方法について，事務局よりご案内いたします。

(2) 参加費，参加費支払い方法

- ① 令和4年8月31日(水) までの早期割引料金
- 1) 日本農薬学会及び協賛学会 (協会) 個人会員の場合：2,000円
 - 2) 上記学会の個人会員でない場合：3,000円
- ② 令和4年9月1日(木)～10月9日(日) の通常料金：4,000円

3. その他

開催案内の詳細は，下記URLからご覧いただけます。
<http://pssj.jp/committee/seizai/seizai41.html>



第36回農薬デザイン研究会 開催案内

主催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会
日時：令和4年11月11日(金) 10:00～19:30 (懇親会含む)
場所：オンライン
参加費：一般会員 (非会員) 5,000円 (10,000円)，公的機関 (非会員) 4,000円 (8,000円)，学生 (非会員) 1,000円 (3,000円)

プログラム：『ニューノーマル時代における農薬デザイン』
※講演タイトルには変更の可能性がございます。

1. 「ラジカルを制御する分子性触媒」 大宮寛久 (京都大学)
2. 「革新的新薬の創出に向けた創薬研究の新たな潮流」 池浦義典 (Axceed Drug Discovery Partners (株))
3. 「ジヒドロ-β-アガロフラン類の全合成」 井上将行 (東京大学)
4. 「新規殺菌剤キノプロール®の創製」 稲垣 準 (日本曹達 (株))
5. ポスター発表
6. 懇親会，ポスター賞表彰式

参加申込み・ポスター発表申込み受付締切：令和4年9月30日(金)

※ウェブサイト (<http://pssj.jp/committee/design/design36.html>) を御覧ください。



第22回農薬バイオサイエンス研究会 開催案内

タイトル：生物の生態と生存戦略を化学する
主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
日時：令和4年11月22日(火) 13:30～16:10 対面+オンライン (オンデマンド視聴) でのハイブリッド開催
会場 (対面)：京都大学 北部構内 農学部総合館1階 W106 講義室
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

プログラム：

- 13:30～13:35 開会の挨拶
13:35～14:10 『カメムシの餌探索行動を解発する植物香気(仮)』
野下浩二(秋田県立大学生物資源科学部)
14:10～14:45 『植物の乳液成分を手掛かりに新規な抗昆虫タンパク質を探す(仮)』
北島佐紀人(京都工芸繊維大学応用生物学系)

休憩(10分)

- 14:55～15:30 『植物と真菌の両方に寄生する青枯病菌の感染戦略(仮)』
甲斐建次(大阪公立大学大学院農学研究科)
15:30～16:05 『根圏での植物-微生物代謝ネットワーク』
杉山暁史(京都大学生存圏研究所)

- 16:05～16:10 閉会の挨拶
参加条件：農業学会会員、非会員ともに参加費無料。皆様、奮ってご参加下さい。ただし、オンデマンド視聴は農業学会会員に限定させていただきます。

申し込み：右記専用申し込みフォーム(<https://forms.gle/4iY7dYP9Lan6rsXo9>)またはQRコードよりお入りいただき、現地参加・オンライン参加(講演動画のオンデマンド視聴・質疑は不可)の希望をお選びください。申込〆切 令和4年11月18日(金)



※コロナ感染対策のため、現地参加の定員を50名とさせていただきます。希望者が50名を上回る場合、オンライン参加をお願いする場合がありますが、その際はご了承ください。

問い合わせ先：崇城大 太田広人(096-326-3765, hiohta[at]bio.sojo-u.ac.jp)
迷惑メール防止のため、@を[at]と記載しております。ご使用はお手数ですが@への変換をお願いいたします。

URL：<http://pssj2.jp/committee/bioscience/22.html>



第45回農業残留分析研究会 開催案内

※本年度は、昨年と同様のハイブリット開催です。

主催：日本農業学会、農業残留分析研究会
日時：令和4年11月24日(木)～11月25日(金)
場所：かがわ国際会議場(高松シンボルタワー 6F)
URL：<http://www.sunport.or.jp>
対面参加数：上限150名

令和4年11月24日 13:00～17:00：

テーマ「知っておきたい農業のマルチ分析」

招待講演Ⅰ「FAMICでの農業一斉分析法について(仮題)」
独立行政法人 農林水産消費安全技術センター(FAM-IC) 山田篤司

招待講演Ⅱ「厚生労働省通知法一斉分析の開発経緯(仮題)」
国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物指定等相談センター(FADCC) 根本 了

招待講演Ⅲ「サロゲートを用いた残留農業一斉分析(仮題)」
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 伴野有彩

招待講演Ⅳ「SFC-TOF/MSを利用した残留農業のスクリーニング検査(仮題)」

株式会社 食品検査・研究機構 安藤 孝

特別講演「香川県農業試験場における研究成果に関する話題(仮題)」

香川県農業試験場 西村文宏

ポスター発表 *昨年実施した口頭発表は行いません。原則、現地でのポスター発表のみとします。

令和4年11月25日 9:00～12:00：

ポスター発表、企業展示

話題提供セミナー「日本農業学会(松田一彦副会長)、企業による残留農業分析のお役立ち情報」

*12:15～18:00 エクスカーション(参加人数50名限定)：中野うどん学校高松校(うどん打ち体験+昼食)→四国総合研究所(見学)→屋島周辺→高松駅→高松空港(18:00着予定)

URL：<http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu45.html>



「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では、精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来、好評を博して改訂を重ね、現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では、前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また、携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。詳細は、学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので、ご参照ください。

「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題等、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ (http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用していただけるよう農薬科学研究奨励金の交付を行っています。これまで、多くの成果が日本農薬学会大会において発表され、また一部は研究論文として日本農薬学会誌に掲載されています。今年度も令和5年度交付分（1件上限50万円、総額100万円を予定）の募集を9～11月に予定していますので、是非前もってご準備いただき、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。詳細な応募要件等は後日正式に決定次第、日本農薬学会ホームページにてご案内いたします。

ホームページ案内：<http://pssj2.jp/inside/grant22.html>

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html



次期役員候補者の推薦受付について

本会役員選出規定に基づき、正会員、名誉会員、終身会員、学生会員は次期（令和5年4月1日～令和7年3月31日）の役員候補者を推薦することができます。推薦する場合は、役員選出規定（特に該当する部分を以下に抜粋しています）をご参照のうえ、候補者名を令和4年9月19日までに本選挙管理委員会に文書で届けてください。届出文書様式は任意としますが、必ず推薦者本人の署名捺印を必要とします。なお、会則および規定の全文は農薬誌第45巻2号および学会ホームページにて掲載していますので、併せてご参照ください。

推薦に際して候補者が会員かどうかをお知りになりたい場合、ホームページから会員名簿を閲覧することができますので、ご利用ください。なお、正確を期したい場合は学会事務局までお問い合わせください。

送付・問い合わせ先：

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

日本植物防疫協会内

日本農薬学会選挙管理委員会

学会ホームページ：<http://pssj2.jp>



会 則 (抜粋)

- 第15条 会長，副会長1名，評議員70名および監事は，正会員，名誉会員，終身会員，学生会員の互選による。
第17条 役員の任期は，2年とする。ただし，会長は重任することができない。

役員選出規定 (抜粋)

4. 会則第15条および本規定に定める会員とは，役員任期満了の前年の5月31日現在の会員とする。
5. 会員は10名以上の連署により，会長1名，副会長1名，監事2名以内の候補者を推薦することができる。また，会員は評議員候補者2名以内を推薦することができる。

令和5・6年度日本農薬学会役員選挙について

令和4年10月に令和5・6年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。インターネット Web システムによる投票のみとなります。なお，本会規定により，本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので，ご注意ください。

日本農薬学会選挙管理委員会
(学会事務局)

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10
日本植物防疫協会内
日本農薬学会選挙管理委員会
FAX: 03-5980-0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp

日本農薬学会第48回大会のご案内

日本農薬学会第48回大会を，2023(令和5)年3月8日(水)から3月10日(金)までの3日間にわたって東京都世田谷区(東京農業大学世田谷キャンパス)にて開催いたします。新型コロナウイルスに関する状況に大きな改善は見られておりませんが，現時点では3年ぶりの対面での開催を予定しております。本会会員ならびにご関心をお持ちの皆様には，奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

本大会については，PSSJ News Letterにおいても簡単な案内は行いますが，最新情報ならびに大会内容の詳細については，大会ホームページやお知らせメールで随時お知らせいたしますので，そちらでご確認ください。なお新型コロナウイルス感染症状況により，大会実施形式，実施計画を変更する可能性があります。2022年9月ごろの状況を鑑みて，11月初旬迄には詳細を決定する予定です。

植物防疫関係2学会(日本植物病理学会，日本応用動物昆虫学会)および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方は，例年通り，本学会会員扱いとなりますので，お近くの学生会員の方にも参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また，非会員の方のご参加も歓迎いたします。

開催場所および日時(案)

- ・2023年3月8日(水)：総会，学会賞授賞式，受賞講演，特別講演等
『東京農業大学世田谷キャンパス 100周年記念講堂』
- ・2023年3月9日(木)～10日(金)：一般講演，シンポジウム，ランチョンセミナー，展示会
『東京農業大学世田谷キャンパス 1号館』

常任評議員会，評議員会および編集委員会は，3月7日(火)に東京農業大学世田谷キャンパスで開催します。詳細については別途ご案内します。

日本農薬学会第48回大会における広告、展示およびランチョンセミナー募集のご案内

日本農薬学会第48回大会を下記の日程・会場で開催いたします。つきましては、講演要旨集への広告の掲載、展示会への出展、およびランチョンセミナーの開催等でご支援を賜りたいと考えております。本大会の成功のために、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日 程：2023年3月8日(水)～3月10日(金) (3月8日は総会・受賞講演等の開催予定ですので、展示会やランチョンセミナーは3月9日および10日となります。)

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス1号館

日本農薬学会第48回大会におけるシンポジウム課題の募集

日本農薬学会第48回大会のシンポジウムは、3月9日(木)～10日(金)に、1課題あたり2時間～2時間30分程度の枠で、東京農業大学世田谷キャンパスで開催する予定です。つきましては、シンポジウム課題を募集しますので、魅力的な課題をご提案ください。

〈申し込み・お問い合わせ先〉

日本農薬学会第48回大会組織委員会委員長

東京農業大学 農芸化学科 須恵雅之

E-mail: sue@nodai.ac.jp

TEL: 03-5477-2323

IUPAC 15th ICCPCのご案内

IUPAC 15th International Congress of Crop Protection Chemistryが2023年3月14日(火)～3月17日(金)にインドのニューデリーで開催されます。新剤の探索・開発、作用機構・抵抗性、DX、環境影響、登録、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、分析技術、毒性評価法、さらにはベクターコントロールなどに関する最新のテーマで議論が行われます。インドの最新で最大級の会場で開催される本会議にぜひご参加いただくとともに、スポンサー・展示でのご支援をよろしくお願いいたします。

URL : <https://www.iupac2023.in/>

組織委員 松田一彦



発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp